

Reitaku Association for Overseas Development 麗澤海外開発協会 会報

平成19年
(2007年)
3月10日
第7号

第4巻第2号
年2回発行

主な記事

巻頭言 挨拶(岩田 啓成)
報告 タイ・ネパール現地報告
お知らせ カボジア・スティーア-募集ほか
その他 寄付金等の報告

発行所: 財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
http://www.reitaku.or.jp
発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

地域に適した「心の通い合う国際協力」を推進する



財団法人麗澤海外開発協会 副会長 岩田 啓成

財団法人麗澤海外開発協会は、外務省所管の公益法人として昭和46年(1971年)に設立されて以来、発展途上国での文化・経済の発展に寄与する人材育成や技術指導を目的に、主に東南アジアにおいて人材の育成と

技術指導を推進し、現在はネパールにおける鍼灸治療専門家の育成および治療用「もぐさ」の製造技術援助と、生活が困窮しているタイ北部の少数民族の子供たちの生活・教育施設(メーコック財団)への助成等を行っています。

モラロジーの創建者・廣池千九郎博士は、世界人類の安心・平和・幸福の実現をめざして総合人間学モラロジーを創建し、モラロジー研究所ならびに廣池学園を創設しました。麗澤海外開発協会も、廣池博士のこの遺志を継いで創設されたものであり、今日まで世界平和をめざした国際協力に努力しています。

また、当協会では、平成15年から理事の竹原茂氏(麗澤大学教授<旧名:ウドム・ラタナヴォン/出身国:ラオス>)を发起人とする「竹原基金」を設け、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業も推進しています。この基金の目的は、タイやラオス、カンボジアなど東南アジアの貧しい子供たちや少数民族の子供たちの教育を支援することにあります。当協会へのご入会ならびに竹原基金等に対しては、これまでに皆様方から多大のご協力をいただいております。紙上をお借りして厚く御礼を申し上げます。

現在、これまでの経験と実績を踏まえ、発展途上国を

中心に心の通い合う国際協力活動を推進するため、地域に適した積極的な国際協力のあり方を調査し検討しています。例えば、タイにおけるお茶の生産・加工事業への農業技術支援や東南アジア諸国における教育支援等の可能性を検討しているところです。

今日、深刻な政治的・経済的諸問題に取り組む発展途上国の姿を見ると、先進各国との経済格差はますます広がってきております。これらの諸国に対して援助の手を差し伸べることは、今日の経済的繁栄を享受している私どもの果たすべき役割といえましょう。麗澤海外開発協会では、これまでの経験と実績を踏まえ、廣池幹堂会長のもと、発展途上国を中心とする心の通い合う国際協力・支援活動のいっそうの推進に向けて努力してまいります。今後とも、会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



タイ北部山岳民族の子供たち



MIRC(モラロジー国際救援運動推進委員会)主催 カンボジア・スタディツアー開催

MIRCは9月9日から7日間、第3回カンボジア・スタディツアーを実施、9名が参加しました。カンボジアの歴史文化や、数十年前に起こった大量虐殺の暗い歴史などについて理解することにより、そこに生きる人々をより深く理解することができたようです。

以下に参加者のレポートをご紹介します。

カンボジア・スタディツアーに参加して 上 甲 真由美

このツアーに参加するにあたり、私には「国家観を変える」きっかけをつかむという目標がありました。しかし、それ以上に「教育(躰)の大切さとそのあり方」について考えさせられました。アジアの発展途上国の人々は信仰が厚く、神の存在を信じる強い魂があると思いますが、小さいうちから強い信仰心があるとはなかなか考えられません。しかし一緒に遊んだ子供たちの瞳を見ると、自然には神が宿っていることを知っているように思えてなりません。それが家庭内で行なわれている教育だと思います。親、祖父母が神を信じる姿勢を見て、子供たちは自然にそれを受け継いでいくのだと思います。

家庭内で行われる教育以外に読み書き、歴史、そして正しいことの標準を私たちは学校で学びます。この正しいことの標準を知ることがどれだけ大切かを私は考えさせられました。カンボジアの歴史で悪とされているポルポト。そのポルポトはカンボジアを良くしようとしてあのようなことを行ったそうです。偏ってしまった教育と思想であのようなことが行われたのです。とても恐ろしくなりました。少しの偏った思想が国全体を破滅へと追いやる力があることを知ったからです。

カンボジアを訪れ、歴史や背景を学び、日本のことを考えた時、状況は違えど、破滅へと歩んでいる気がして



バサックスラムの様子

ならなくなりました。真実の歴史を私たちが知らないために自信も夢も誇りも持てず、愛国心の薄い日本人が増えている

からです。私たちは日本を知らなければ、日本を語れなければ、日本を好きでなければいけない、と強く感じました。

「私に何ができるだろう」と考えた結果、できることはとても小さなことでした。それは「伝える」ということです。私たちが親になり、育てる立場に立ったとき、正しい歴史、文化、日本人の忘れていた魂を継承していくことこそ、これから私ができることだと思います。そうするにはこれからたくさんのこと学び直し、さらに世界に目を向けていかなければなりません。

また、カンボジアの国が最悪の状態になったポルポト政権時代。しかしそれは遠い昔のことではなく、私がこの世に生を受けてからも続いていた浅い歴史。そのことに対して注目しようとしなかった自分の無関心さにも驚きました。自国のことを学ぶ以外にも、今世界で起きていることを知ることとても大切なことだと感じました。

私にたくさんのことを教えてくれた国、カンボジア。この国が私を日本人にしてくれた気がします。私には帰る国があること、またそれが日本であることに感謝させてくれ、そして日本のことを好きにさせてくれた国でした。これから、歴史をはじめ、たくさんのことを学んでいかなければならないことを痛感いたしました。このツアーに参加し、感謝する心を忘れず、後世に伝えていけるよう精進してまいります。

(財団法人モラロジー研究所 嘱託職員)



農村の民家の多くがこのような簡素なつくり

私がこの活動で学んだことを今後どう活かすか

豊方 麻奈美

この一週間、いろんなことに驚き、いろんなことを考え、様々な考えに触れ、五感をフルに使ったと思う。私の夢は小学校の教員になることで、今回のツアーに参加したのも、カンボジアの小学校教育を生で見ることができ、子供たちと肌で触れ合うことが一番の目的であった。実際に小学校を見学したり、子供たちと触れ合っただけで感じたことは、まず「教育」よりも、「教育する場」を作ることが重要なんだということだった。特に2校目の小学校は屋根と囲いがあるだけで、イスと机はなかった。それでもそこで子供たちは勉強している。最後にエンピツとノートを子供たち一人ひとりに渡したら、ぎゅっとなぎりしめてとても嬉しそうに顔をしていた。今でも子供たちのあのキラキラとした笑顔が目に残ってくる。あの学校にイスと机を並べてもっと勉強しやすい環境を整えたいと思った。

また、改めて「教育の重要性」を感じた。よく「最近の子供たちは」という言葉を聞くけれど、今の日本の環境や教育が子供たちを大人びさせてしまっている部分があるのではないだろうか。私は子供たちが誰しも持っているであろうキラキラとした想像力や夢、素直な心を育てていけたら良いと思う。そして、日本だけでなく、もっと世界を見て、世界のことも子供たちに伝えていけたら良いなと考えている。日本の生活が当たり前で日本が普通という価値観を子供たちにもってほしくないのだ。そのために、まずは私自身がしっかりと勉強しなくてはならないと強く感じた。今、新たなスタート地点に立つことができた。

世界の192ヶ国中、開発途上国は162ヶ国でそれは世界の人口の約8割にあたるという。きっと、カンボジアだ



昼食の様子

けではなく、他の国でも教育する場や教員の不足により、教育を受けることのできない子供たちがたくさんいるのだろう。私たちが生まれ育った日本という国はとても恵まれていると改めて感じた。物が溢れている環境にいとそれが当たり前となり、逆に何か少し不足しただけで「足りない」「できない」と決め付けていたことに気づき反省した。今の自分には何ができるのだろう。スタディツアーを終えた今、このままではいられないという思いに駆られた。先生になりたいという夢を夢のままで終わらせたくない。夢を叶えられる環境にいるのだから、まずやってみようと思う。

この一週間、本当に大きな実りを得ることができた。素敵な9人の仲間と共に一週間の旅ができたこと、心から嬉しく思う。また、この素晴らしい体験をここで終わらせるのではなく、色々な人に体験してもらいたい。まずは自分の身近な人にこのツアーの推薦をしてみようと思う。素敵な一週間をありがとうございました。

(財団法人モラロジー研究所 準職員)



トラム・クラ小学校の生徒たちと

トラム・クラ小学校の背景

トラム・クラ小学校はコンポントム州都から北側に28キロ離れた場所に位置します。もともと、1988年の頃はコミュニティスクールでした。木製で一教室、瓦屋根の校舎、粗末な校舎は状況が悪化していました。生徒たちは危険で厳しい環境と、教室不足や教員不足、不十分な設備の中で勉強をしていました。2004年にモラロジー研究所の支援により、3つの教室から成る校舎と、4つのトイレ、そして井戸が建設されました。この小学校の教育状況は改善され、生徒たちはより良い環境の中でより意欲をもって勉強することができています。年々入学率も増加しています。



ネパール 現地報告

◆ ガソリン価格高騰で民衆デモ

世界的な原油高騰で、日本でもガソリンの値段が市場最高値になったというニュースが報道され、頭を悩ませておられる方も多いことと思います。

ネパールでは8月10日過ぎからガソリンスタンドの閉鎖が多くなり、給油が困難になりはじめました。値上げのために閉鎖しているのかと思いきや、ガソリンの値上げに反対している民衆が道路を封鎖、古タイヤを路上に並べ、次々とガソリンを撒いて火をつけているとのことでした。市内はたくさんの車が投石され、町の方角で黒い煙が上がり始め、車で通行するのは危険な状態になりました。

値上げ前のディーゼルの価格は1リットル56,25Rs(90円弱)、ガソリン67,75Rs(120円強)でしたが、19日に発表された値段はディーゼル59,08Rs(100円弱 10,95%上昇)、ガソリン84,25Rs(150円弱 25,1%上昇)、灯油59,21Rs(100円弱 23,21%上昇)、プロパンガス1000Rs(1700円 11,3%上昇)です。国民所得が日本の30分の1以下のネパールで日本より高いガソリンやディーゼルでは、バス、タクシー会社や自家用車、オートバイ所有者の怒りはもっともだと思います。しかしタイヤを燃やしたり、投石しても解決できる問題ではないのではないのでしょうか。

11月21日、中断していた7大政党とマオイストの和平交渉が成立し、長年にわたり続いたマオイストによる数々の妨害や拉致、バンダに一応終止符が打たれました。首相とマオイスト代表の会談は深夜にまで及びましたが、翌22日は「祝賀」と称して店などは臨時休業、学校も休校となり、その後もマオイストによる祝賀ラリーが何日か続きました。

ネパールは本格的な観光シーズンに入り、観光客を乗せた飛行機は連日満席だそうです。ようやくカトマンズをはじめ各地がにぎわいはじめています。



ネパールの首都カトマンズ

◆ よもぎエッセンシャルオイルを日本で販売開始

ネパールで精製しているよもぎエッセンシャルオイルを「森の妖精」という商品名で日本へ出荷しました。

オイルの瓶は日本語による商品名や輸入製造元、原産国などの表示が必要なため、日本で購入し持ち運んでいましたが、大量に必要なため、輸送費の安い船便で日本から発送することにしました。しかしこれが後々大きな間違いである

ことに気づきました。ネパールでは個人の物や贈答品であっても、ほとんどの品物に関税がかかってしまうのです。通関税や輸入税をインド、ネパール両国に支払わなければ品物を受け取ることができず、頭の痛い問題が発生しています。すでにインドの税関に2ヶ月近く保管されていて、保管料だけでも相当な金額になるはずです。

輸入許可を受けた大手業者をお願いしていますが、行く度に「銀行の証明書が必要」「日本の取引銀行の口座番号が必要」などと一度で済むことを毎回言われ、なかなか思うように動いてくれません。日本で「常識」だと思っていたことが、こちらではそうではなく、また「顧客重視」の考えでないネパールではこういうことがよく起こるので、いつも頭を抱えています。



よもぎエッセンシャルオイル 森の妖精



よもぎ石鹸シリーズ753 3個セット

こちらの商品は有限会社大創より販売しております。

<http://store.yahoo.co.jp/yomogifield/>

報告：畑美奈栄(鍼灸師)



タイ 現地報告

◆ 子供たちの成長

メーコック財団で子供の受け入れが始まって以来、訪問や滞在を通して子供一人ひとりと接して来た中で、最近では彼らの成長がまぶしく感じられます。きちんと1日3回食事に恵まれ、以前はか細かった子もしっかりした体つきになりました。学校での出来事や得意科目について一生懸命話してくれたり、日本語の絵本を訳して教えてくれと言ってきたこともあり、知的好奇心も旺盛です。また一番年少の子が椅子で眠ってしまったときには年長の子がおぶって寮まで連れて行ったり、危ないことをしていたらスタッフに伝えるなど、一人ひとりが親元を離れた、あるいは親のいない集団での生活を受け入れ、精一杯生きていることが時折伝わってきます。



メーコックにある畑を耕す

しかしながら、残念なことにメーコック財団を出て行った年長の男子のうち二人は進学が続けられなくなったと聞きました。



豚の飼育の様子

詳しい事情はわかりませんが、出て行ってしまった子供やその家族へのフォローアップの難しさを感じます。

今後の子供の受け入れの形態については、家族や親戚がいない子供を中心に預かり、教育の機会を提供していく方向のようです。子供だけでなく、その家族の理解と協力を得ることへの労力は計り知れませんが、いずれにせよ、教育に恵まれない子供により多くの機会が与えられることを願います。

◆ 養豚プロジェクト始動

子豚が順調に成長し大きくなったのに合わせ、豚小屋の内部をさらに改造、子豚用に別の広いスペースが作られました。登校前の早朝、下校後の夕方と毎日の世話は大変だと思いますが、よく世話しているようです。先月はまだかわいいと思えた子豚は近寄るのがためられるほどの威勢の良さでした。

◆ 農作業を通してたくましく

訪問した日にはちょうど畑の作業に取り掛かっていました。女の子も非常にたくましく、暑い中、交代で雑草駆除や鍬で土を耕していました。以前メーコックに滞在し、子供の世話やピパット先生のサポートをしていた年配の女性スタッフが復帰してくれたことで、子供の活動の幅も広がることでしょう。メーコック財団近くのパーサー小学校に通学していたときに比べ、学校が生活の中心になった今、農業をどのように継続してやっていくかは課題と言えると思います。

◆ 自立への道

山に住む山岳少数民族の人々にとって現金収入が必要となった今でも、条件の良い仕事を得る機会はなかなかありません。そのような状況の中で、子供たちが義務教育を受け、今後職業訓練に力を入れていくというメーコック財団で成長を続けられれば、きっと自活への道が開かれることでしょう。しかしスタッフ不足の中、どのように職業訓練が進められるのか、またどのような訓練すべきなのか、今後も注目していきたいです。



建築作業を手伝う

活動
紹介

サークル活動を通して国際協力 麗澤大学プアンサークル



学校法人廣池学園、財団法人モラロジー研究所では様々な国際交流の場があり、たくさんの輪が広がっております。今回はその一つ、麗澤大学にあるプアンサークルの活動を紹介します。プアンサークルは国際協力活動を通して友だちの輪を広げ、また自らの未来への可能性を伸ばしています。

こんにちは、学生ボランティアサークルプアンです。竹原茂先生(麗澤大学教授)のタイ北部スタディツアーに参加した仲間が集まって、学生同士でも何か活動できないかという思いから結成されました。「プアン」とはタイ語で「仲間」という意味です。世界の仲間と相互協力関係を結び、様々な問題解決に取り組もうという気持ちが込められています。

そんなプアンももうすぐ8年目を迎えます。現在約35名の仲間が学年・学部の枠を越えて、竹原先生の指導のもと、真の国際協力を学びながら和気あいあいと活動しています。その年によって規模も内容も変化していきますが、プアンの活動の根底にある、メーコック財団とのつながりは常に大切にしていきたいと思っています。

私たちの活動の中心は、民芸品販売を通してひとりでも多くの方にタイ北部少数民族の問題やメーコック財団について知ってもらうことです。メーコック財団の子供たちの勤勉さや、何事にも感謝する気持ちなど、そんな心の豊かさから多くのことを学ばせていただいたので、私たちも力になればと思って活動をしています。

そのため、麗陵祭などの学内のイベントはもちろん、毎年代々木公園で行われているタイフェスティバルや柏まつり、手賀沼ジャズフェスティバルなどのイベントにも積極的に参加し、毎年売上の一部を子供たちの教育支



麗澤大学麗陵祭で民芸品販売

援のために寄付させていただいています。近年では、伝統の日や生涯学習フェスタでも民芸品の販売をさせていただきました。

プアンで販売している民芸品はすべて、少数民族の女性たちが一針一針手縫いで刺繍した伝統的なものです。鮮やかな色合いと、気の遠くなるような細かい刺繍は、芸術品と言ってもいいかもしれません。イベントの度に多くの方に手にとっていただいて、最近では常連さんもいらっしゃいます。熱心に説明に耳を傾けてくださる方、逆に



ミーティング中は和気あいあいと

私たちに教えてくださる方、タイに旅行したときの話を聞かせてくださる方、民芸品を通して出会う多くの方々とのコミュニケーションもまた、私たちの楽しみです。今後も、竹原先生のアドバイスを受けながら、真の国際協力について理解を深め、微力ではありますが、メーコック財団の力になれるよう活動していきたいと思っています。



モラロジー研究所「伝統の日」にも出展



少数民族の民芸品

(岡野 奈央)

国際協力活動への理解を深める

財団法人モラロジー研究所は「モラロジー生涯学習講座(概説講座・原典研究講座)」を毎月1～2回開講しています。講座では、午後のプログラムの一つとして、国際協力活動についての理解を深めるコースが毎回設けられています。

毎回、タイ・ネパール・カンボジア・バングラデシュ等において、現地N G Oと連携して行ってきた教育・医療分野での支援活動を紹介しながら、海外援助の意味、私たちが日本国内においてできることなどを話し合っています。参加者がこのコースを選択した理由は、「海外では、貧困、戦争、難民などで苦しんでいる人が大勢いるが、自分に何ができるかを考えたいと思って参加した」「多くの人とこの問題について懇談したかった」「なんとなく選んでしまった」など様々です。本部講座を受講される方に、広くご紹介ください。

(土谷 和光)



現地の様子を報告するスタッフ

麗澤高等学校タイ・スタディツアー開催



スタディツアー参加者とメーコックの子供たち

12月20日～28日に麗澤高校生13名と村上義光教諭の15名でタイ・スタディツアーに参加しました。生徒たちはメーコックでの奉仕活動にタイ語会話帳を片手に早朝から積極的に参加し、子供たちと楽しく過ごすことができました。物や情報が溢れている日本とは違い、生活に最低限必要な物資のみで協力し合う生活は、いかに日本での生活が恵まれているかを考えさせられるものでした。日常の生活での身近なことに感謝する心を養えられただけでも、生徒たちにとって大きな成果であったと思います。

(桑島 義智)

連載コラム

インドで「英語」を「英語」に翻訳！

第5回

10億の国民を擁するインドは「世界最大の民主国家」と言われている。人口では13億の中国に第一位を譲るが、独立後、貧困や障害にあえぎながらも議会制民主主義を維持してきた立派な連邦国家である。連邦公用語はヒンディー語であるが、州によってはこのヒンディー語が全く通じず、州によって定められている17の公用語が実際に使用されており、全国的には補助公用語と呼ばれている英語のほうが通用するようだ。

インドの民衆が話す補助公用語の英語、これがまた凄まじい。(R)は江戸っ子顔負けの巻き舌で、(TH)の(H)は消えて(T)だけでもしくは(T S)の発音となる。「33ドル」は「ターツイ・ツリー・ドゥラー」に近い。

ネパールからインドのダーズリンへ旅をしたときのことである。ネパールの首都カトマンズからバスでおよそ18時間で国境の町カカルピッタに着く。ここからは徒歩でインド西ベンガル州側の国境ラーニーガンジに渡る。

ラーニーガンジから、ユネスコの世界遺産にも指定さ

れている「トイ・トレイン」の駅があるスリグリまでは、乗り合いジープを利用した。そこで一緒になったのがオーストラリア人のカップル。半年近くある卒業旅行を利用してアジアをじっくり巡っているらしい。

彼らがインド人ドライバーと値段の交渉をする。もちろん英語である。その英語をドライバーは聞き取れない。ドライバーも英語で返事する。それがオーストラリア人には聞き取れない。そこで颯爽と登場したのが、サバイバルイングリッシュの私である。オーストラリア人が話した英語を「オウム返しに」カタカナ英語でドライバーに伝え、ドライバーの英語をカタカナ英語で話し直す。その会話に「ターツイ・ツリー・ドゥラー」があったかかどうかは忘れてしまったが、オーストラリア人の二人は私がベンガル語に訳していると信じたようで、西洋人には珍しい尊敬の対応をしてくれた。

両方の民族の話す英語が聞き取れる日本人のヒヤリング力は恐るべし!である。

(A.K)

たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成18年6月から平成19年1月末日)

会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成およびクリニック兼もぐさ工場を運営する事業等に役立させていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

| 種類 | 年 額 |
|-------|--------------|
| 個人会費 | 1口 一万円(1口以上) |
| 法人会費 | 1口 一万円(3口以上) |
| 一般寄付金 | 任意の寄付金を募ります |
| 竹原基金 | 任意の寄付金を募ります |

郵便振替：口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567

名義(財)麗澤海外開発協会

個人会費

堀内一史、横山輝男、吉井啓之、高野橋孝治、望月省二、望月雄二、工藤信一、鷺津邦男、甲良昭彦、廣池幹堂、藤村陽子、長谷和治、太田徳昭、池田宗義、今木康之、戸田正宏、桑島義智、嶋田順子、浅野金郎、望月一雄、小嶋義佑、横尾昭男、中村修一、東海林新彦、小松務、琴谷達郎、宮本勝子、高松洸、宮脇常夫、木野村教眞、杉浦廣道、水田恵一郎、新井秀啓、高松宇佐雄、石渡英雄、發坂卓雄、小野剛、星野恵昭、井上源次、山田雅雄、丸山駿一、平川恵一、大橋政夫、山崎純雄、野田好秋、内田八代、大村金三、長谷川武、福田薫、岸本收、井上健、望月敏雄、松田貞男、望月靖子、望月淑子、前田三作、矢口信哉、富山修、鈴木幸造、松本義一、橋本半兵衛、松本哲洋、藤村薫、所一彌、白木ふさ子、福澤清治、山本祥子、柏谷康博、竹原茂、白木和彦、関哲夫、山本幾雄、木下廣太郎、斎藤久子、林正勝、宮島達郎、木村美紀夫、小林莞侍、山本義光、内田誠一郎、笠原茂、小西直之、小林雅純、横山守男

法人会費

株式会社小松製菓(小松務)、株式会社ピアかざりや(新井秀啓)、野田ミート株式会社(野田好秋)、株式会社スーパーバリュー九州本部(杉一郎)、株式会社ダイキョープラザ(杉一郎)、佐藤薬品工業株式会社(佐藤又一)、大田モラロジー事務所(松田貞男)、海部津島モラロジー事務所(浜島千恵子)、合資会社川貞高店(古川定邑)、日本橋モラロジー事務所(井上照悟)、坂井モラロジー事務所(伊藤忠雄)、アサヒ株式会社(大賀康弘)、横山印刷株式会社(横山明弘)、有限会社白木園芸(白木和彦)、南戎子野町内会ほほえみ

一般寄付金

伊藤朝雄、相川修治、加登啓司、大山寿々枝、鷺津邦男、甲良昭彦、廣池幹堂、横溝久子、長谷和治、戸田正宏、渡辺康博、宮脇常夫、山添雅道、發坂卓雄、橋本ハルコ、三浦俊夫、山田雅雄、竹政幸雄、中村勲、森下健、大橋政夫、許林雪霞、木野千代子、森口紗由利、佐藤玲子、坊城俊樹、高松クニ子、島村弘子、所一彌、関哲夫、山本幾雄、木下廣太郎、永井弘純、山本義光、笠原茂、小西直之、宮本勝子、内野俊策、横山守男、篠原正隆、御代川克之、木村多加志、丸山駿一、八宝商事株式会社(荻野渌)、高知県モラロジー協議会(中平明)、津山モラロジー事務所(田村勝己)、株式会社アイディ(伊藤一郎)、守口門真モラロジー事務所(藤原照雄)、苫小牧ニューモラル友の会(細川勝紀)、愛媛中予モラロジー事務所(村上英富)

竹原基金

甲良昭彦、廣池幹堂、ウヰクラマツカ文子、横溝久子、長谷和治、大津猛郎、戸田正宏、桑島義智、小嶋義佑、荒木利郎、山田荘一、増田一江、宮本勝子、高松洸、宮脇常夫、石渡英雄、發坂卓雄、小野剛、橋本ハルコ、山田雅雄、鋤柄勘治、丸山駿一、平川恵一、大橋政夫、内田八代、岸本收、飯島孝夫、前田三作、井上千多枝、田中駿平、松井さだ子、松本哲洋、所一彌、山本祥子、柏谷康博、竹原茂、白木和彦、関哲夫、山本幾雄、木下廣太郎、小池上綾子、笠原茂、伊藤容也、飛名美裕子、内野俊策、横山守男、篠原正隆、新潟モラロジー事務所(小林誠司)、名古屋中川モラロジー事務所(力野信次)、高知県モラロジー協議会(中平明)、南戎子野町内会ほほえみ、麗澤大学竹原ゼミ、麗澤大学プアサークル

(敬称略)

会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。ご連絡のない場合は、掲載に同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。

(麗澤海外開発協会事務局：04-7173-3165)